

信楽高原鐵道株式会社の経営再生にかかる進捗状況等について

1 信楽高原鐵道の沿革

- S8. 5. 8 国鉄信楽線開業
- S62. 7. 13 信楽高原鐵道開業(国鉄信楽線廃止)
- H3. 5. 14 列車衝突事故発生
- H25. 4. 1 鐵道事業再構築実施計画開始(上下分離方式での運行へ移行)
- H25. 9. 15 台風災害により運休・バス代行(→H26. 11. 29運行再開)
- R5. 3. 31 鐵道事業再構築計画期間終了

2 鐵道事業再構築実施計画

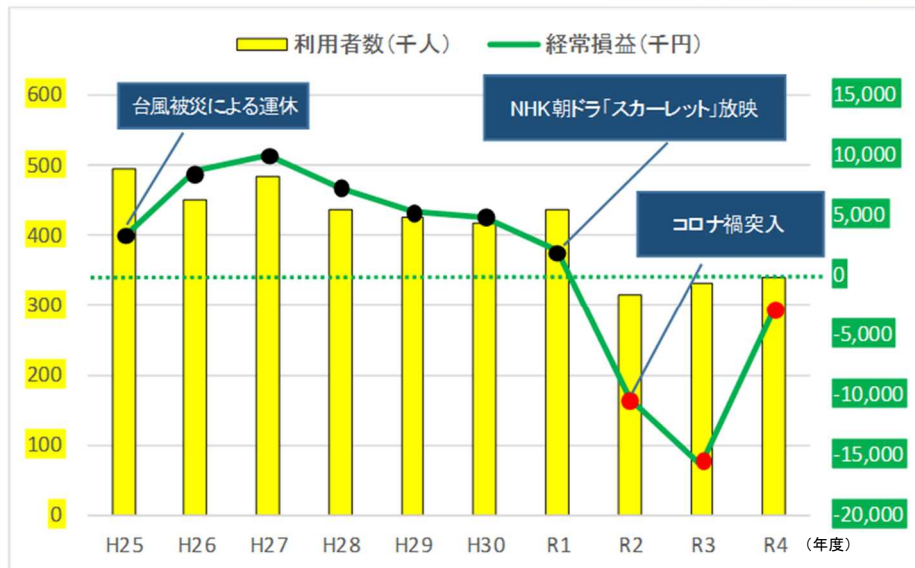
【概要】

申請者	甲賀市、信楽高原鐵道、滋賀県
計画内容	① 事業構造の転換(甲賀市:鐵道施設を保有し施設維持管理費用を負担、信楽高原鐵道:列車を運行)【上下分離方式】 ② 地域による利用促進策の実施
実施期間	平成25年度から令和4年度までの10年間
実施効果	① 信楽高原鐵道における鐵道施設等の維持管理費用の負担軽減 ② 地域と連携した積極的な増収施策等の展開による、収支均衡と安全で安定した運行の維持

3 利用者数・収支の状況(計画期間10年間の推移)

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	10年間
		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計
利用者数 (千人)	計画目標値	527	520	514	508	502	497	491	486	480	475	5,000
	実績値	495	451	484	438	425	417	438	314	332	339	4,133
収入 (千円)	計画目標値	162,700	162,700	162,700	162,700	161,700	160,700	159,700	161,700	160,700	159,700	1,615,000
	実績値	148,987	171,724	163,147	160,634	161,106	162,936	170,201	144,851	160,547	175,684	1,619,817
支出 (千円)	計画目標値	152,350	151,350	152,350	153,350	149,350	150,350	151,350	153,350	153,350	154,350	1,521,500
	実績値	145,736	163,041	153,075	153,416	155,748	158,146	168,053	155,257	176,453	178,675	1,607,600
経常損益 (千円)	計画目標値	10,350	11,350	10,350	9,350	12,350	10,350	8,350	8,350	7,350	5,350	93,500
	実績値	3,251	8,683	10,072	7,218	5,358	4,790	2,148	-10,406	-15,906	-2,991	12,217
特記事項	台風被災			リサラーソン展				スカーレット放映	コロナ禍	コロナ禍	コロナ禍	

※青色セル=計画目標達成、赤色セル=計画目標未達



4 これまでの利用促進策(主なもの)

- ・甲賀市「スカーレットプロジェクト推進事業」と連携した観光誘客
- ・甲賀忍者をテーマにしたラッピング列車の運行
- ・リサラーソン展など美術展と連携した観光誘客
- ・信楽高原鐵道利用促進協議会との連携による「陶製干支切符」の販売
- ・近江鐵道との連携による「びわこ京阪奈線フリーきっぷ」の販売
- ・サンタ列車、ひな祭り列車の運行
- ・地域と連携した田んぼアートによる沿線修景



【スカーレットラッピング列車】



【サンタ列車】



【田んぼアート】

5 再構築計画の実施効果

- ・鉄道事業再構築実施計画に基づき上下分離方式に移行したことで、鉄道施設等の維持管理費用の負担が分離され、本法人の経営上の負担軽減が実現。
- ・負担軽減の結果、計画初年度から計画7年目まで一貫して黒字経営を継続し、収支均衡と安全・安定運行を維持。
- ・地域と連携した積極的な利用促進策として、観光誘客や地域の魅力発信など様々な取組を実施。特に朝のNHKドラマ「スカーレット」を活かした観光誘客により、放映が開始された令和元年10月以降、観光客による団体利用や一般利用が増加。
- ・一方、人口減少等により、利用者数は計画目標値には届かず、また安全対策や物価高騰の影響等により、計画を上回る経費が発生する状況が継続。
- ・さらには、令和2年2月以降、コロナ禍の影響により、利用者数と旅客収入が激減し、スカーレット効果を十分に取込むこともできず、令和2年度以降、3期連続で経常損失を計上。

6 今後の見込み

- ・人口減少の深刻化、コロナ禍を契機とした「新しい生活様式」の定着、物価高騰等により、引き続き厳しい経営環境が予想される。
- ・一方、令和5年度以降、コロナ禍に伴う移動制限が解除されているため、利用者数の一定の回復が期待され、コロナ禍前（平成30年度）の9割程度まで利用者が戻れば、十分黒字化できる見込み。
- ・人口減少は不可避であるが、引き続き沿線住民の利用促進を図るほか、観光誘客による利用者の増加や付帯事業での収益拡大を図るため、関連団体との連携強化や新規コンテンツの開発等に取り組む必要がある。
- ・なお、鉄道事業再構築実施計画の計画期間は終了したが、信楽高原鐵道線が地域のまちづくりや観光誘客、通勤通学の定時性確保等に果たす役割は大きいこと、JR草津線や近江鐵道線と一体となって鉄道ネットワークを形成していること、列車衝突事故を含むこれまでの歴史的な経緯等に鑑み、引き続き、国からの支援と併せ、県として令和5～10年度の6年間、第三種鐵道事業者である甲賀市に対して補助金を交付し、信楽高原鐵道への間接的な支援を行うこととしている。